

第 46 回 栗東市中小企業振興会議 会議概要

■日時：令和 8 年 2 月 1 6 日（月） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 3 8 分

■場所：栗東市危機管理センター 2 階 大研修室

■出席：《委員》

近藤宏一委員（会長）、田中康人委員（副会長）、田中義信委員、吉田幸司委員、
福田弘樹委員、東郷鐘吾委員、藤田裕人委員、宮島正貴委員

《オブザーバー》

栗東市商工会担当

《事務局》

商工観光労政課課長補佐、商工観光労政課事務局担当

■欠席：柳原和範委員

1. 開会

（商工観光労政課課長補佐）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（近藤会長あいさつ 省略）

4. 報告事項

（1）第二期栗東市商工振興ビジョンロードマップに係る進捗状況について

○事務局説明（省略）

【おもな意見交換】

委 員：各事業について、数値の報告だけでなく、増減の要因等もう少し詳細な説明を
いただきたい。

事務局：りっとうバルについては、長年実施し周知ができています。まちゼミは栗東市の
参加としては減っているが、全体（湖南 4 市）は達成している。

委 員：今説明いただいた事業は商工会が実施しているものと認識している。商工会に
も説明いただきたい。

オブザーバー：りっとうバルについては、前年度の参加者に声掛けをし、半分以上は毎年参加している。まちゼミはチラシでの案内とこれまでの参加者への声掛けを行っている。

委員：りっとうバルは増えているが、まちゼミは減っている。今後の方針を聞きたい。

オブザーバー：まちゼミは継続、りっとうバルは見直しを行いながら実施していく。

委員：まちゼミの来年度の目標値が空欄であるが、実施しないというわけではないということか。その他にも空欄があるが同様か。

事務局：そのとおりである。修正する。

委員：そういったことも含めて説明が欲しい。経済は常に変化している。5年の計画を立てたらずっと計画に沿ってやらなければならないという訳ではないと思う。変化に対応しながら数値を変えても良いのではないかと思っている。

会長：大きく変化している所については、特に説明が欲しい。

事務局：空き店舗補助金については、新規の件数のみ記載しており、継続を含むと5件になる。そのうち1件は事業撤退している。また、対象範囲が影響していることも考えられる。りっとう経営なんでも相談会については、4月～5月が少ない。信用保証料助成金については、PR方法が少なく、銀行からの紹介が多いため、件数がなかなか伸びていないと推測する。創業支援融資利子補給金は、先日日本政策金融公庫と協議し、連携して周知を図っていくことが決定した。先端設備は実績がかなり少なく、検討していく必要がある。事業承継の相談件数については、月に一度開催している相談会では、創業や経営に関する相談が多く、事業承継の分野は未だない。ただ、先日の日本政策金融公庫との協議にて、事業承継の相談に見えた方を当相談会へ案内し連携をとっていくことが決まった。

委員：デジタル化促進補助金について、予算の割合を教えてください。

事務局：国の交付金を活用したものであるため、予算の上限が決まっており、おおよそ一社20万円を上限に、第1弾、第2弾それぞれ設定して行った。

委員：デジタル化促進補助金は、補正後も即日で終了している。先端設備の件数が少ないのであれば、デジタル化促進補助金に移すということも手ではなかろうか。たった1日で終わるのは少なすぎる。

委員：デジタル化促進補助金は、割と簡単に申請することができた印象である。

委員：初日で予算上限とあるが、審査はないのか。

事務局：第2弾については、現在精査中ではある。

委員：精査中とはいえ、初日で受付終了している。

会長：先着だったら分かるが、先着でないのであれば、2日目に問合せ等なかったのか。

事務局：問い合わせはあった。

会長：1日目でもう受付は終わりましたと言われたら、普通は怒る。最初にこの話を聞いたときは、受付超えたらその時点で終わることを公示して行ったものだと思っていた。また、もう受付は終わりですと伝えて終わりではなく、申請内容を見て、他のものでの申請の案内や、来年度こういう制度ができるため対象になります等の案内を行っていかないと、チラシだけでは広報としては待っているだけになる。具体的にニーズがあるところにこちらから声をかけていかないと、事業者は忙しくて、知っている人は知っているけれど、知らない人は全く知らないというある種格差がそのままになってしまう。知らない人で補助の対象になりそうところを掴むことが必要である。商工会や金融機関、窓口にご相談だけ見えた方へこちらからアプローチしていくことがルーティン化のようになっていけばと思うので検討いただきたい。

事務局：承知した。

5. 協議事項

(1) 新年度の主な実施事業の概要（案）について

○事務局説明

【主な意見交換】

委員：学生によるフィールドワーク調査は何を調査するのかははっきりしていないということか。それで予算がつくというのは、順番が逆なのではないか。

会長：今までコンサルに頼みアンケートを取っていたが、表面の数値は見えても深いところが分からなかった。実際に市民の皆さんや事業者の皆さんと直接話をして、数字的なデータではなく、具体的な話を掘みたいということで、それであれば学生が適しているのではないかという話になった。ただ、手法という部分は決めきれていないというのが現状である。また、空き店舗調査は、毎年学生が行っているので、歩いて稼ぐということでできると話をしてしている。

委員：何もやらないまま秋口になると良くないので、早めに何をやるかについては決めた方が良くと思う。

会長：今回のゼミ生募集の際も、栗東市のフィールドワーク調査を行う前提で入る学生もいるため、早めに取りかかりたいと考えている。

委員：現在、馬関連で行っているものはあるのか。

事務局：先日、さきらでウマ娘とのコラボイベントを実施した。完全予約制での実施で、パネル展示やグッズ販売を行った。

委員：反響はあったのか。

事務局：土日のチケットは完売し、実際に動員で参加した際は、全国各地からお客様がみえており、かなり反響はあったかと思う。

委員：過去に実施していた馬カードは27万枚、今回は5万枚ということだが、少ないのではないか。

事務局：前回の馬カードは、大型店舗が含まれていた。今回は中小規模の店舗のみでの配布を考えている。

委員：カードの種類はどのくらいあるのか。

事務局：現時点では5種類ほどを予定している。

副会長：市内の方だけでなく、市外・県外の方にも来ていただいて、市内業者さんと盛り上げていくような形になればと思う。そのPRも頑張っていたいただければと思う。

委員：PRというところで、観光と重なるところがあるかもしれないが、市外・県外から来ていただくのであれば、周遊マップを作るのも手ではないか。予算にチラシとポスターとあるが、どちらかだけにして、周遊マップを作成することで、しっかり市内の店舗を回っていただけるような工夫も必要なのではないかと思う。馬カードの時も、競馬ファンの方からかなり反響があったことは伺っている。

会長：そのような意味では、周知用のチラシというよりは、周遊してもらうためのチラシというものの方が良いかもしれない。周知は、一度すれば勝手に広がっていくため。

事務局：検討する。

委員：資料最後のページにある助成金について、先ほどの報告事項の中でも挙げたが、先着順なのであれば、先着であることをしっかりと予告しておかなければならない。国の交付金を使うということだが、それでもなるべく多くの事業者にしかりと回るように取り組んでいただきたい。また、デジタル化補助金と比べると事務経費がかなり上がっている。そこも精査して、見直していただければと思う。

事務局：承知した。

委員：③の新商品開発について、予算がまだ分からないため、とりあえず10万円ずつ設定されているとは思いますが、何か大きめのことをやろうと思うと10万円では全然足りない。大学との共同研究のような大きなものなのか、個人店、例えばお饅頭屋さん等が新しい商品を出すようなものなのか、どのような想定をしているか。

副会長：商工会より提案した内容でもあるためお答えする。後者のような小規模のもの、試作品等で使っていただければと思っている。

(2) 令和8年度 中小企業振興会議スケジュール（案）について

○事務局説明

【主な意見交換】

特になし

(3) 物価高騰対策デジタルクーポン「りっとう割」について

○事務局説明

【主な意見交換】

委 員：応募者数の市内在住と市外在住（市内在勤）の割合を教えてください。

事務局：市外の方は全体のおよそ5%となった。

委 員：他市町は市内と市外で区別していたのか。

事務局：他市町で実施しているものは、住んでいる場所や働いている場所に関係なく誰でも申込が可能であるところが多い。

委 員：紙とデジタルでは、どのくらいコストが違うのか。

事務局：印刷製本費がかかるかどうかでかなりコストが違う。また、デジタルであれば登録だけで各店舗の売り上げ状況等もリアルタイムで確認ができ、店舗様が最後に紙を集めて事務局まで持っていくという手間もなくなる。

委 員：コストをとるか、高齢者への対応をとるかという選択になってくるのか。

事務局：他市町では、デジタルと紙を併用して行おうとしているところもあるようだが、併用すると、店舗側での混乱が起きかねないと懸念している。

委 員：個人的には、あらゆる自治体で行っているためデジタルを継続で良いかと思う。デジタルが分からない方に対しては、操作方法等教える専用の窓口を設置するという手もあるかと思う。

事務局：今回、コールセンターの設置と、常時ではないが操作説明ブースを設けた。

会 長：神戸市では、高齢者のデジタル化支援ということで、ショッピングセンターの入口で学生がボランティアとして無料で使い方を教えますというものをやっていて好評だったと聞いたことがあるため、そういったことも検討するのも良いかと思う。デジタル化したことによって浮いた分を高齢者への支援（スマホ購入費割引など）まで行っていけると、高齢者にデジタル化が広がっていくのではないかと思う。

委 員：参加店舗について、クーポンが使われた店舗数なのか。

事務局：参加を表明したすべての店舗数である。そのため、クーポン利用0円という店舗も含まれている。

委 員：紙のプレミアム商品券と比べて参加店舗数は増減あったのか。

事務局：昨年度の紙のプレミアム商品券では322店舗、今回のりっとう割では166店舗となっている。

会 長：約半分になっているということか。本会議では中小企業支援について主に議論する場であるので、そちらの方が気になる。減っている店舗の大半が小規模の店舗であるのならば、やっぱり紙の方が良いのではとなるかと思う。ただ、小規模のところでもデジタル決済等ができるように、補助金などでサポートを行っていくことも検討できるかと思う。昨年度参加したが今回参加しなかった店舗に、参加しなかった理由等調査すると見えてくるかと思う。

委 員：紙の場合は購入しているため、使わないと損するため使っただけだが、今回の場合は申し込むだけなので、使い切らず終わる人もいる。地域振興という面では、使われないと意味がないので、分析等必要かと思う。

事務局：第一弾では、17%ほど残った。こちらを第二弾で先着にて実施し、使い切っただけで予定である。

会 長：そういった操作ができるのはデジタルだからこそできることである。紙だと個人が使わない限りできない。これまでの意見や状況を踏まえて検討いただければと思う。

(4) その他

○事務局説明（栗東市中小企業者等物価高騰対策デジタル化促進補助金について）

【主な意見交換】

特になし

6. 閉会

（田中副会長あいさつ 省略）